



流川のカツパくん

第3話 作:ミルルベッポ 「流川文学～織田作之助～」

その文人の中で一番流川通りに関係深いのが、

織田作之助 さんです

織田作之助さんの代表作は
「夫婦善哉」

今でもドラマや舞台でよく演じられる名作です

この小説のモデルは織田さんの姉夫婦で、昭和9年から別府に移り住み理容器具や料理店を営んでいたそうです

織田作之助さんは度々別府を訪れ、流川が登場する小説をいくつも書いています




流川文学

という言葉があります

大分県別府市 流川通りは、湯の街として 昔から文化人の往来も多く様々な作品の中に取り上げられています



「湯の街」 (昭和21年)

戦前の流川が描かれています
「流川通を貫く海岸の方へ、中略」
「別府祭り、竹編工などの土産物屋、旅館、レストランが難然と軒をならべ、そしてレストランの三層にはダンスホールがあった」
まさに流川通りの描写そのままです

「雪の夜」 (昭和16年)

別府温泉 流川を舞台にした短編小説
雪の降る大晦日のお話です
バスガイドが流川通りを別府の道頓堀と紹介しています

「怖るべき女」 (昭和21年)

別府温泉のみやげ物屋の看板娘の物語です

これらは全て別府流川通り界隈を舞台にしている
流川三部作と言われています

これ以外にも織田作之助さんは
「放浪」「競争」などの作品も別府流川を題材に描いています



別府流川通り界隈には、今も作品に関連する場所が沢山残っています

様々な織田作之助さんの研究サイトで場所が載っていますが是非古き別府の名残を感じに来て下さい

流川通りからちよつと入った
寿温泉の前に
「流川文学発祥の地」の
記念碑も建っています




そして夫婦善哉の続編が、織田作之助さんの死後、鹿児島県薩摩川内市内で発見されました。

「続夫婦善哉」は作品の舞台が大分から別府になっています

作品の中に出てくる場所も実際の場所に当てはめて、考えられて面白いです

織田作之助さんのお姉さん夫婦は、別府の竹瓦温泉近くで
甘味処「夫婦善哉」というお店を始めています
その後も割烹旅館、小料理店と続けていたようです
(現在はともありません)

夫婦用
カツパは一人で
2杯食う




代表作「夫婦善哉」は、昭和30年、森繁久彌さん、淡島千景さんの出演で映画化され一躍有名になりました

その後も昭和38年「新夫婦善哉」、昭和43年「喜劇・夫婦善哉」と、続けて映画化されていきます

舞台でも、松竹演劇部で、長い間上映されています

歴代の役者さんも、森繁久彌さん、淡島千景さん、藤山寛美さん、野川由美子さん、中村玉緒さん、藤田まことさん、沢田研二さんと
そうそうたる面々です

